

概要（事前分析表のポイント）

施策目標VI-3-1

技能継承・振興のための施策を推進すること

【概要】令和4年度事前分析表（施策目標Ⅵ-3-1）

基本目標Ⅵ：労働者の職業能力の開発及び向上を図るとともに、その能力を十分に発揮できるような環境整備をすること

施策大目標3：「現場力」の強化と技能の継承・振興を推進すること

施策目標1：技能継承・振興のための施策を推進すること

現状（背景）

1. 技能労働者の動向

① 建設業

- ・建設関連職種の有効求人倍率は新型コロナウイルス感染症の感染拡大以降も他産業と比較して高い状況。
- ・他産業に比べて高年齢層（55歳以上）の割合が高い一方、若年層（15～29歳）の割合が低い。
- ・他産業に比べて新規学校卒業者の入職者が少ない。

② 製造業

- ・新規求人数の対前年同月比は新型コロナウイルス感染症の影響で大幅減となるも、現在は増。
- ・就業者数は若年層（34歳以下）では2002～2012年減少し以降横ばい、高齢層（65歳以上）では2002～2017年増加傾向であったが以降は横ばいで推移。
- ・新規学校卒業者の製造業への入職割合は2014年過去最低を記録して以降は上下を繰り返している。

2. ものづくり分野の人材育成には、長時間を要する

- ① 技能系正社員が中核的技能者になるまでの採用時からの年数は以下のように、ものづくり分野の人材育成には、長時間を要する。
 - ・新卒採用の場合には、平均10.2年を要する。
 - ・中途採用の場合であっても、平均7.3年を要する。
- ② 中核的技能者の育成についても、育成するための指導者の不足やノウハウの不足が挙げられる。

課題 1

- ・持続的な経済成長を続けるためには、高度な技能労働者の育成が不可欠だが、若者のものづくり離れ・技能離れが見られる状況。
- ・特に、建設業、製造業の技能労働者不足が問題となっており、若年層の技能への関心を高め、技能継承に向けた取組や技能労働者の育成をより一層進めていく必要がある。
- ・若者のものづくり分野への誘導に関しては、ものづくり体験で興味を喚起した後に、さらに興味を高めて、最終的にもものづくり産業への就業につなげる必要がある。

達成目標1

技能継承・振興の取組の推進

【測定指標】太字・下線が主要な指標

- 1 ものづくりマイスターの活用を契機として、技能検定又は技能競技大会を人材育成に活用した企業又は業界団体の割合（アウトカム）
- 2 技能五輪全国大会の来場者数（アウトプット）
- 3 3級技能検定（ものづくり職種）の受検者数（アウトプット）

確認すべき主な事項（事前分析表）

背景・課題について

1

施策目標の実現に向けて、どのような課題があるかを過不足なく記載できているか。

（注1） 課題の分析に漏れがあると、その後が続く、達成目標の設定が不十分となる可能性あり。

達成目標について

2

課題に対応した達成目標を設定できているか。

3

施策目標の実現に向け、適切にブレイクダウンできているか、抽象的なものとなっていないか。

（注2） 達成目標に含まれる内容が多すぎる場合は、適宜分割をすることも要検討。

測定指標、参考指標について

4

達成目標の進捗度合いを測定する指標として、合理的な指標が設定されているか（達成目標と測定指標の関係性は明確か）。

5

測定指標はアウトプットとアウトカムの双方が設定されているか。

（注3） 最終的なアウトカムだけでなく、アウトプットと直接的な関係性のある短期的なアウトカムや、最終的なアウトカムを実現するための中期的なアウトカムを設定することが望ましい。

6

測定指標のうち「主要な指標」とそれ以外の指標が区分されているか。また、「主要な指標」とする理由は明確で、適切に選定されているか。

7

当該年度の目標値が記載されているか。

8

目標値は過年度実績や最終目標年度の目標値を踏まえ、適切な水準に設定されているか。

9

指標の入れ替えが行われている場合、その理由について説明されているか。

10

目標値を設定することは困難だが、実績値を経年的に把握することで、評価の参考となる情報について、参考指標として設定されているか。

達成手段について

11

測定指標と関連する達成手段数が0となっていないか。

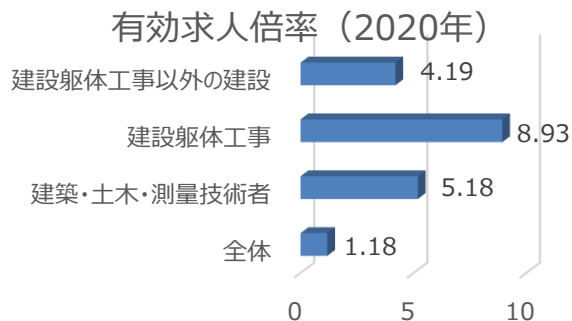
12

達成目標と関連する達成手段が多数になっているなど、達成目標と達成手段との関係が複雑な構造となっていないか。（注2）参照

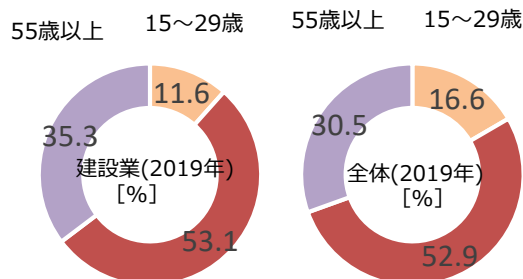
1. 技能労働者の動向

① 建設業

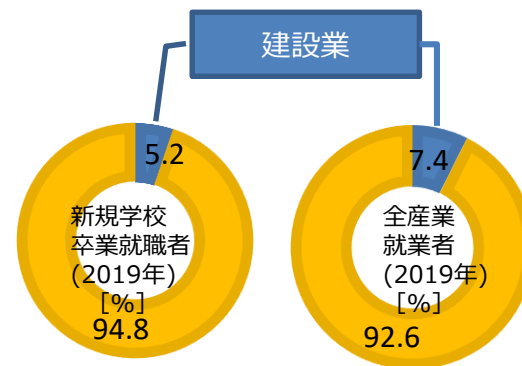
・建設関連職種の有効求人倍率は新型コロナウイルス感染症の感染拡大以降も他産業と比較して高い状況。



・他産業に比べて高年齢層（55歳以上）の割合が高い一方、若年層（15～29歳）の割合が低い。



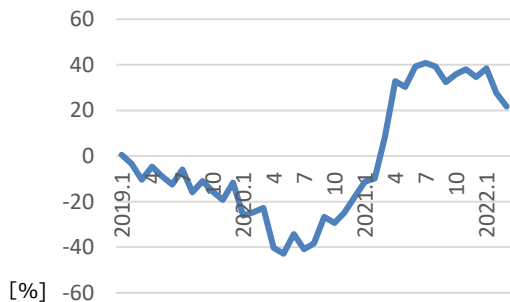
・他産業に比べて新規学校卒業者の入職者が少ない。



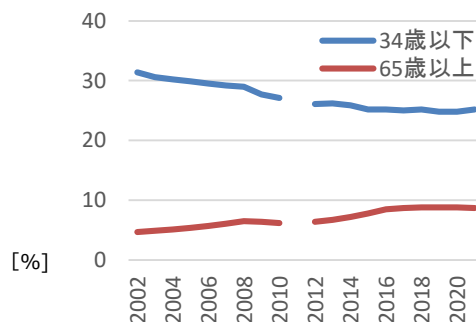
資料：建設雇用改善計画（第十次）

② 製造業

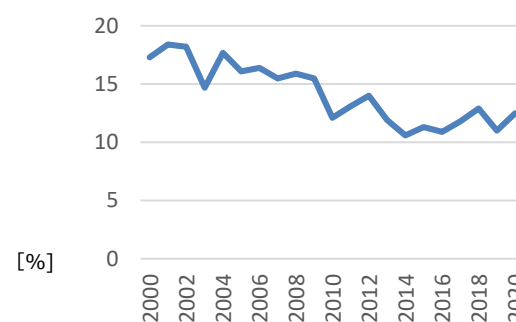
・新規求人数の対前年同月比は新型コロナウイルス感染症の影響で大幅減となるも、現在は増。



・就業者数は若年層（34歳以下）では2002～2012年減少し以降横ばい、高年齢層（65歳以上）では2002～2017年増加傾向であったが以降は横ばいで推移。



・新規学校卒業者の製造業への入職割合は2014年過去最低を記録して以降は上下を繰り返している。

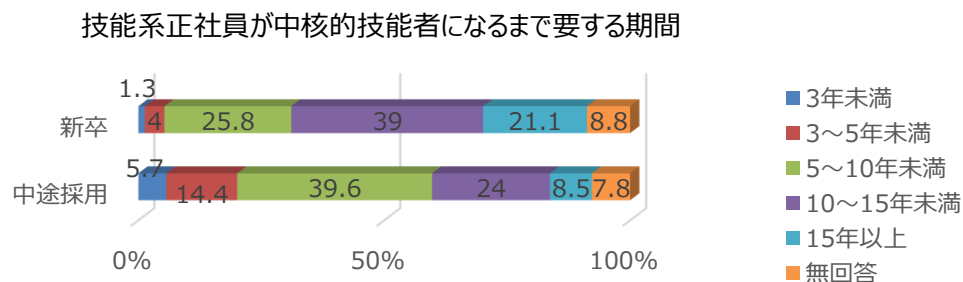


資料：2022年度版ものづくり白書

2. ものづくり分野の人材育成には、長時間を要する

① 技能系正社員が中核的技能者になるまでの採用時からの年数は以下のように、**ものづくり分野の人材育成には、長時間を要する。**

- ・ 新卒採用の場合には、平均10.2年を要する。
- ・ 中途採用の場合であっても、平均7.3年を要する。

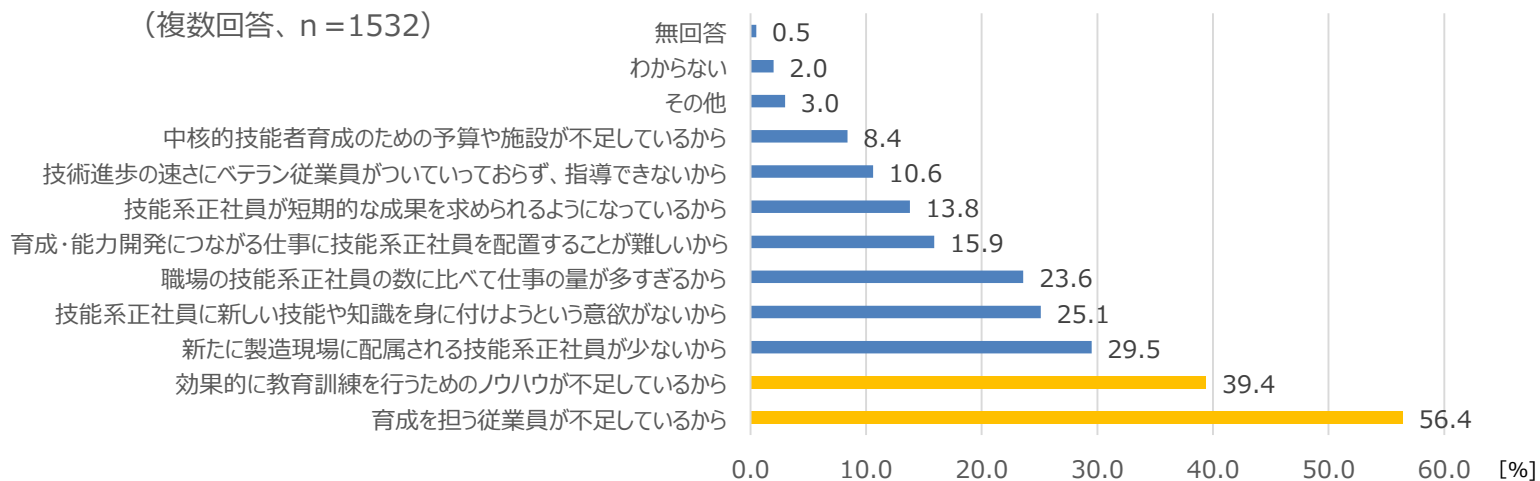


資料：(独)労働政策研究・研修機構「ものづくり現場における若年技能者及び中核的技能者の確保・育成に関する調査」(2013年)

② 中核的技能者の育成についても、育成するための**指導者の不足やノウハウの不足**が挙げられる。

中核的技能者の育成がうまくいっていない要因

(複数回答、n = 1532)

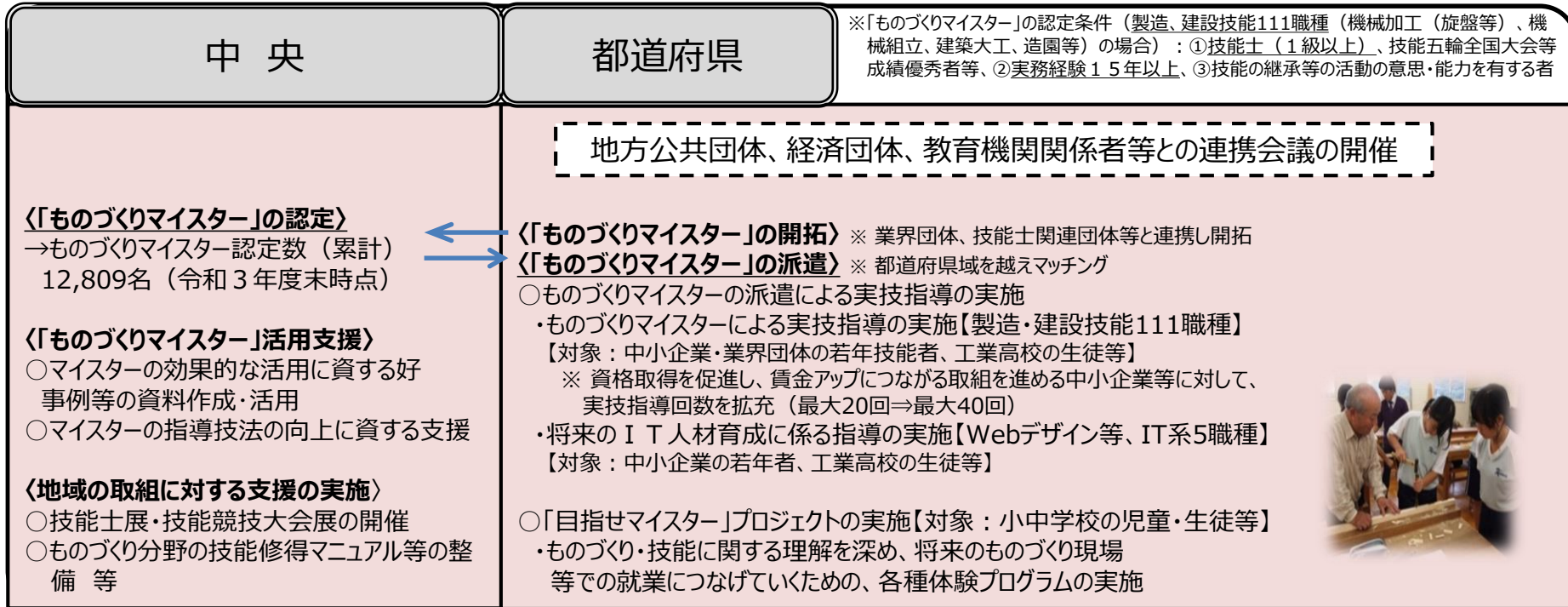


資料：(独)労働政策研究・研修機構「ものづくり現場における若年技能者及び中核的技能者の確保・育成に関する調査」(2013年)

若年技能者人材育成支援等事業

- 若者のものづくり、技能離れ等の実態を踏まえ、技能尊重気運の醸成、産業活動の基礎となる技能者の育成を図るため、「ものづくりマスター」の開拓・認定、活用（技能検定・競技大会の課題を用いた実技指導等）による技能継承、その他に地域関係者の創意工夫による技能振興の取組を推進するため、「若年技能者人材育成支援等事業」を実施。

＜事業スキーム＞




＜企業・業界団体、教育訓練機関＞
若者のものづくり業界への誘導・若年技能者の人材育成、技能尊重気運の醸成等

技能五輪全国大会について

概要

- **技能五輪全国大会**は、青年技能者（原則23歳以下）がその技能レベルの日本一を競うことで、**若年層の技能の向上**を図るとともに、**広く国民にもものづくり分野等の技能の重要性・必要性をアピール**することを目的に、昭和38年から毎年開催。幅広い職種を対象とする、唯一の全国レベルの技能競技大会。原則として、国際大会の前年に開催される大会は、翌年に開催される**技能五輪国際大会** <唯一の世界レベルの技能競技大会（隔年開催）>の選手選考を兼ねている。

第60回技能五輪全国大会の概要（主催：厚生労働省、中央職業能力開発協会）

- 日程：令和4年11月4日(金)～11月7日(月)
- ※ 競技の様子はLIVE配信を行う予定 
- 競技会場：幕張メッセ他複数会場
- 参加選手数：約1,600人（見込み）
- 競技職種：製造・建設分野をはじめとする42職種








■ LIVE配信サイト
(worldskills.jp)



技能五輪全国大会、技能五輪国際大会の開催（予定）地

※写真は第59回大会のもの

	平成28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
技能五輪 全国大会	山形県 選手数1,318人 来場者数153,586人	栃木県 選手数1,337人 来場者数199,063人	沖縄県 選手数1,292人 来場者数129,876人	愛知県 選手数1,239人 来場者数187,470人	愛知県 選手数944人 ※無観客開催	東京都 選手数1,028人 ※無観客開催	中央 (千葉県など)	中央 (愛知県など)	中央 (未定)
技能五輪 国際大会		UAE (アブダビ)		ロシア (ガソ)			中国 (上海)		フランス (リヨン)

技能五輪全国大会の競技職種（計42職種）

ライブ配信アクセス数
：約17万 PV

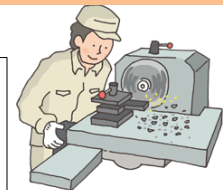
ライブ配信アクセス数
：約11万 PV

- 電子技術系（4職種） …… メカトロニクス、電子機器組立て、電工、工場電気設備
- 情報通信系（4職種） …… I Tネットワークシステム管理、情報ネットワーク施工、ウェブデザイン、移動式ロボット
- 機械系（9職種） …… 機械組立て、プラスチック成型、精密機器組立て、機械製図、旋盤、フライス盤、試作モデル製作、自動車工、時計修理
- 金属系（5職種） …… 構造物鉄工、電気溶接、自動車板金、曲げ板金、車体塗装
- 建設・建築系（10職種） …… タイル張り、配管、石工、左官、家具、建具、建築大工、造園、冷凍空調技術、とび
- サービス・ファッション系（10職種） …… 貴金属装身具、フラワー装飾、美容、理容、洋裁、洋菓子製造、西洋料理、和裁、日本料理、レストランサービス

技能検定制度の概要

1. 概要

- 技能検定制度は、**労働者の有する技能の程度を検定**し、これを**公証する国家検定**制度であり、**労働者の技能と地位の向上を図ることを目的**に、職業能力開発促進法に基づき昭和34年から実施。
- **ものづくり分野を中心に**、技能のウエイトが高く、全国的に需要を有する分野を対象に、**国が主体**となり全国、業種・職種共通の基準の下で制度を構築・運営。



機械加工職種

2. 実施内容

- 厚生労働大臣が厚生労働省令で定める職種ごとに、厚生労働省令で定める等級（特級、1～3級など）に区分して、**レベルに応じた技能・知識の程度**を、実技試験及び学科試験により客観的に評価。令和4年4月1日現在、**130職種**（うち**建設・製造業関係**は造園、さく井、金属溶解、機械加工など**99職種**。ファイナンシャル・プランニングなどサービス業関係は31職種）。
- 技能検定に合格した者は、「技能士」と称することができる（いわゆる**名称独占資格**）。
- 都道府県が実施する方式（現在110職種）に加え、平成13年に、厚生労働大臣が一定の要件を満たすものとして指定する民間団体が実施する指定試験機関方式（現在20職種）を導入。



建築大工職種

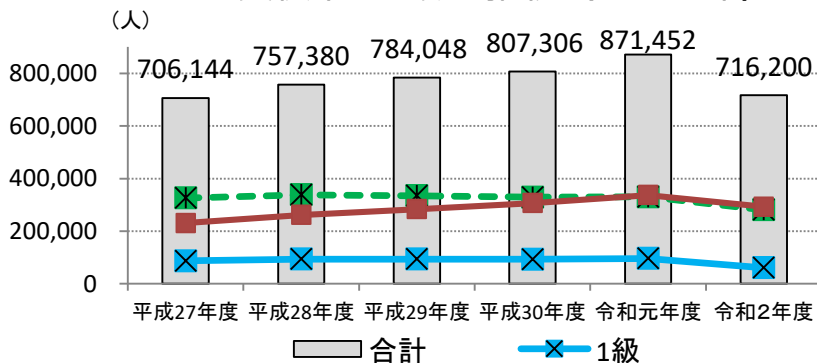
3. 実施状況

- 令和2年度は全国で約71.6万人の受検申請があり、約29.9万人が合格。（累計では延べ約764万人が「技能士」）
- 令和2年度の受検申請者数が多い職種は、ファイナンシャル・プランニングの約43.5万人（対前年度比8.4%減）、機械保全の約2.6万人（同33%減）、とび約1.6万人（同11%減）。



ウェブデザイン職種

○ 受検申請者数の推移（過去6年）



* 都道府県実施方式分・指定試験機関方式分を合わせた全数

○ 職種数の推移

